バッィ
バッィバッィ
バシィ

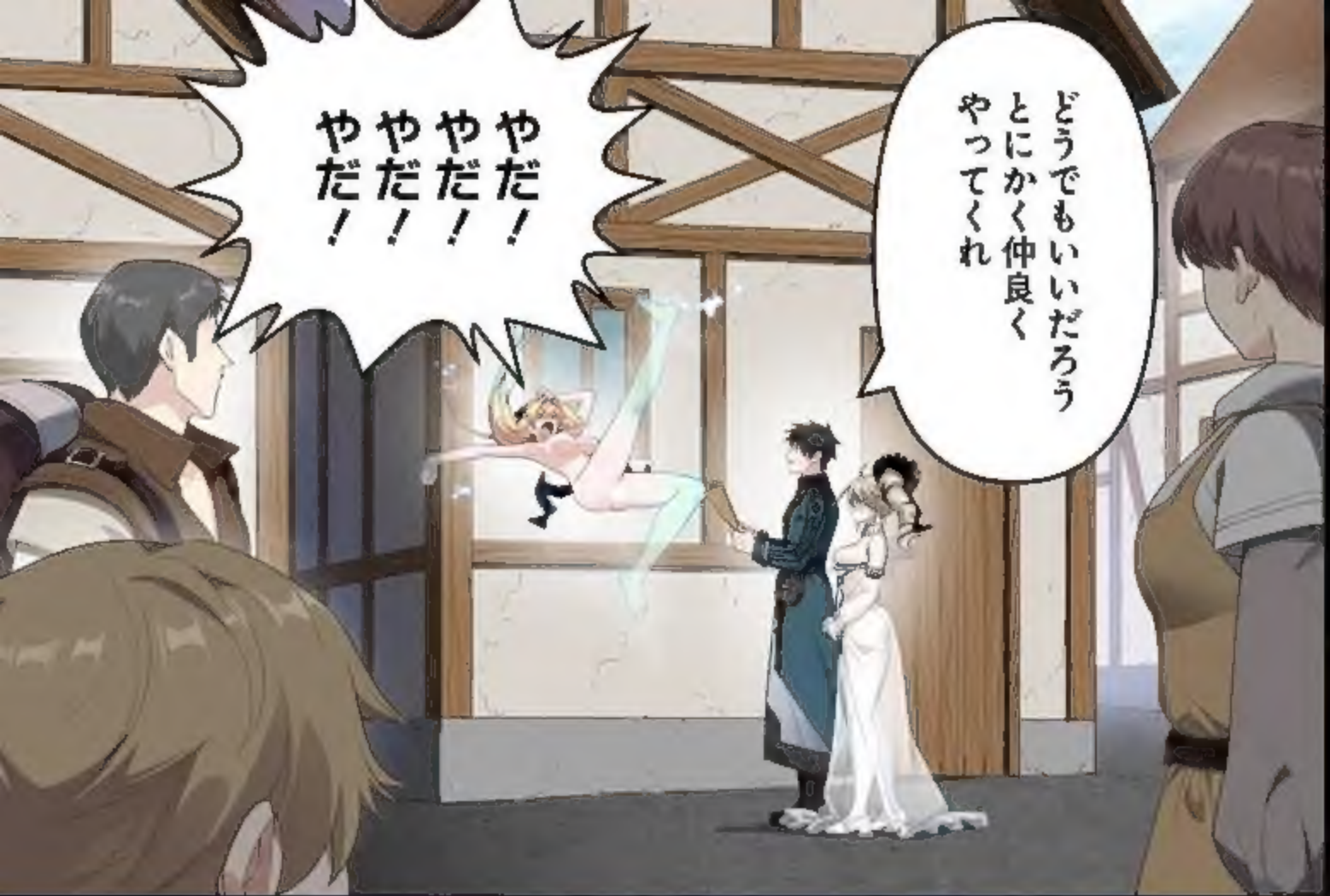
あぁっ…！
もっと…ください！
ご主人様ぁ…

そろそろ行こうか

私…聖女失格です…もうカイゼルの人達に顔向けできない…

ご主人様…
私…私…
うわ～～ん!!
じわっ
じわっ
私なんかに
そんな優しい言葉を…
ご主人様のためなら私…
落ち着け！
公衆の面前で
服を脱ぐな！

外ではその呼び方はやめようユウヤって呼んでくれ
ダメよ！
サリーと監獄空間で休むんじゃなかったのか？
言っとくけど「ユウヤ」って呼んでいいのは私だけなんだからね！

どうでもいいだろう
とにかく仲良く
やってくれ
やだ！
やだ！
やだ！
わ…わかった！
別のを考えるから！

じ…じゃあ
貴族の使用人みたいに
様をつけて呼ぶのは…？
……
ふんっ
わかってる
じゃないの
じゃ 帰るわ
ありがとう
マリア
帰るといえば…
いい加減元の世界に
戻りたいな…
スマホにネット
アニメやコンビニ
きっとみんなも
気に入ると思う
よし 引き続き
帰る方法を探そう！
「フィオルメ」に
向かってみようか
はい
ユウヤ様

地図によるとこの世界には十二の王国があるみたいだな今 俺達がいるのはマータ王国ここには四つの大都市がある
マリアがいた「カイゼル」に残りの三つが「フィオルメ」「マカ」「メッソ」だ
「カイゼル」は知ってのとおり雄大な聖堂や純潔な聖女が有名だな
フィオルメ
カイゼル
フィオルメ
マカ
メッソ
「フィオルメ」は有名な治癒医療都市で国の中でも指折りのプリーストが集まっているそうだ
「マカ」には強力な聖騎士団がいて最も安全な都市だと言われている
「メッソ」はフルーツワインが有名だそうだ最も包容的な都市で多くの民族が暮らしているみたいだな

リヴ…
ここでも
何かおかしなこと
企んだりしてないよな？
し…してないわよ！
私達は一緒に危機を
乗り越えた仲間じゃない！
そんな仲間を
疑うなんて…
ひどいわ！

ユウヤ様が言っている
「おかしなこと」って
私達のこと…？
そんなふうに
思わせて
しまったなんて
サリーは悲しいわ…
い…いや…
そういう意味じゃない
ぐっ…

ドゴオ
そ…そうだ！
早く監獄空間に
入るんだ
関所の通行料を
節約できるからな
あっ!?
ちょっと！
押さないでよ！
私はぐっすり
寝ておいたので
万全な状態で
ユウヤ様にお供しますね
ご主人様のそばに
いたかったのにぃ
ぐすぐす

女の子の扱いは
難しいな
魔獣討伐に
行ったほうがマシだ
ふぅ…
ドゴォ
!!
ゴオオオオ

どういうことだ!?
突然空に魔法障壁が？
あぁ…神様…お救いを…
なんて規模の魔法だ…
マータ王国の民よ
お前達はまもなく死ぬ
血と炎を恐れず
最後まで戦い続けるのだ
最強の戦士だけは
我が下僕として
見逃してやる

世界の終わりだ！
あぁ…神様…いったいなぜ…
きっと汚い貴族達が神様を怒らせたんだ！
……
生き残るためには戦ってもらう…我ながらすばらしい計略だわ！
そこにいることは知っているわよアグネスお前の愛する人間達はお前のせいで死ぬの
その悔しがっている顔が早く見たいわ戻って私の下僕になるのよ

パミンッ
パミンッ
パミンッ
パミンッ
きゃははは！
私が満足するまで
気絶しちゃダメよ！
もっと鳴いて
体液を撒き散らしなさい！
私を満足させられたら
治してあげるわ！
これが私の
「聖光の祝福」よ！
感謝なさい!!

そうだ！
もっと面白いこと
思いついちゃった
もうひとつの神託よ
あなた達の中に隠れている
鎖の使い手を
捕まえた人も
死を免除できるわ！
また神託が
下ったわ！
ふふふ…楽しそう！
その人を捕まえたら
傷つけては治して…
考えるだけで
ゾクゾクしちゃう
つづく★次回更新をお楽しみに！

どうしたんだ!?

！

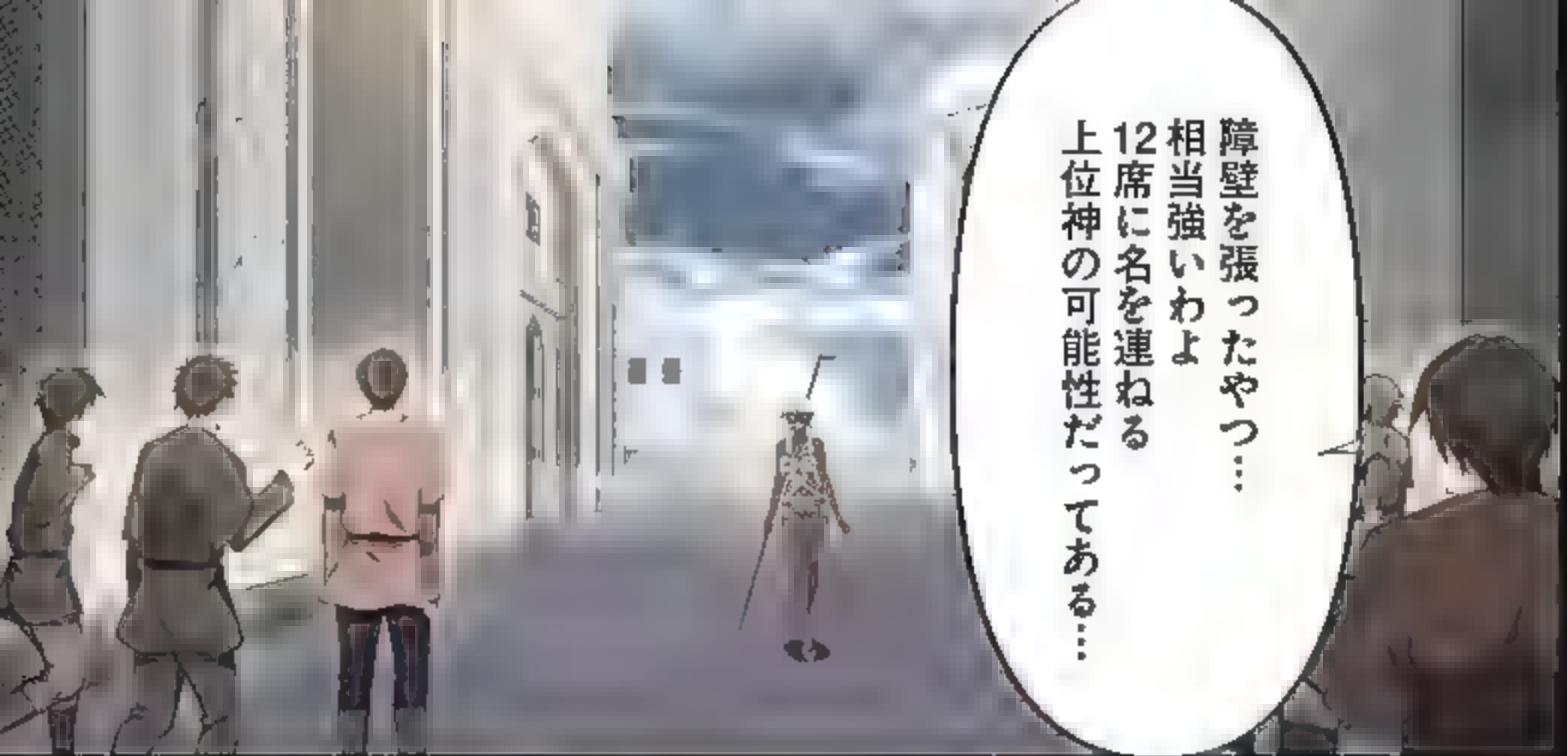
ん？

聖光――安神!

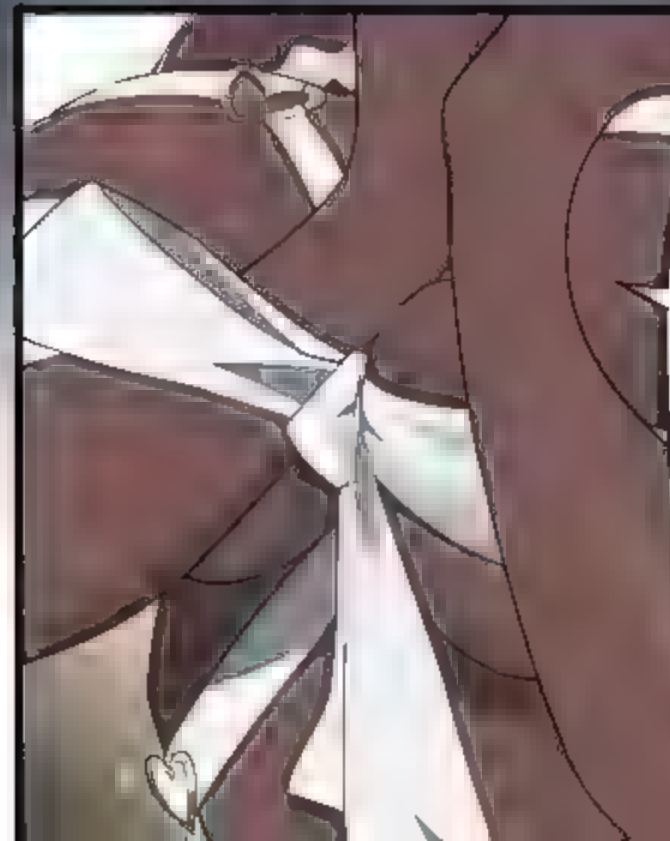
この暖かな光は…女王様だ!
よかった助かった!
女王様早くこの障壁を破って我々の商隊をここから出してください!

全員邪魔よ
神託に背きたくなければ
お退きなさい

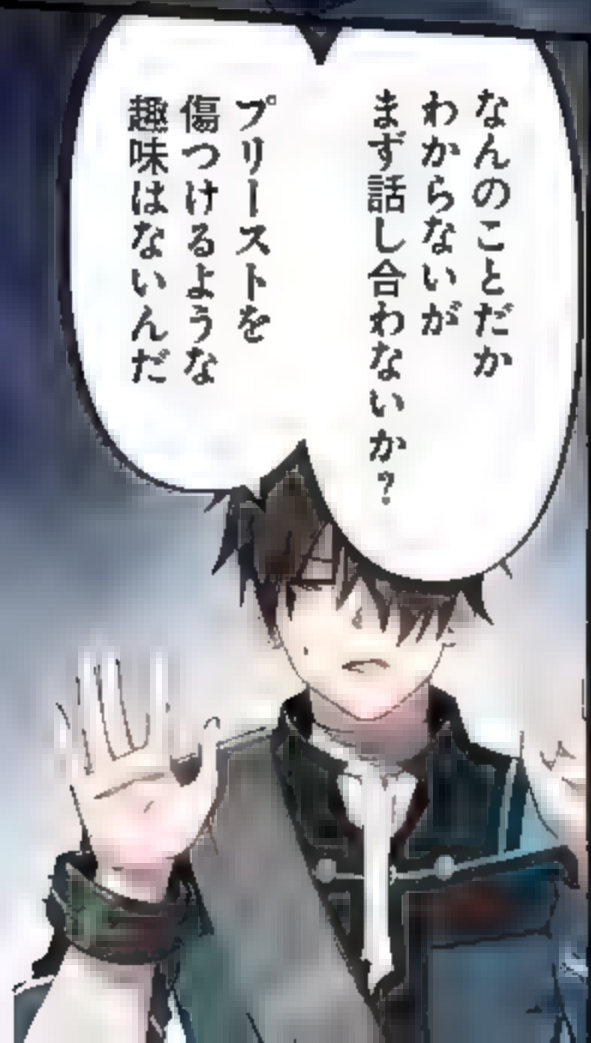
何が神託だ
まさか また
新たな邪神の仕業!?

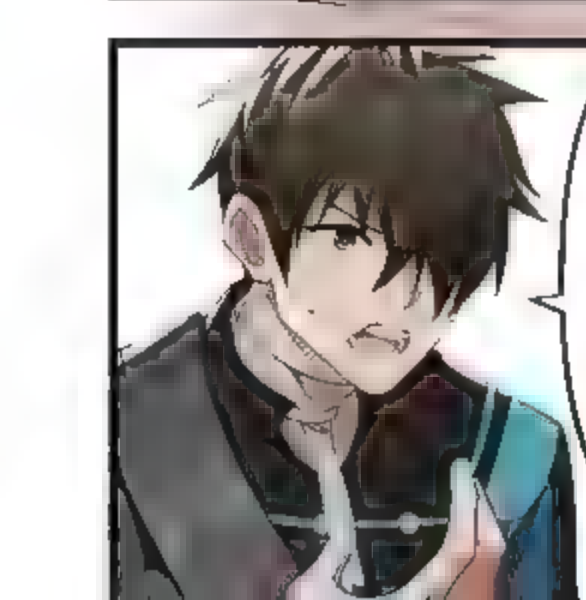
みんな 出てきてくれ
何が起こるかわからないが
備えておくんだ

障壁を張ったやつ…相当強いわよ 12席に名を連ねる上位神の可能性だってある…

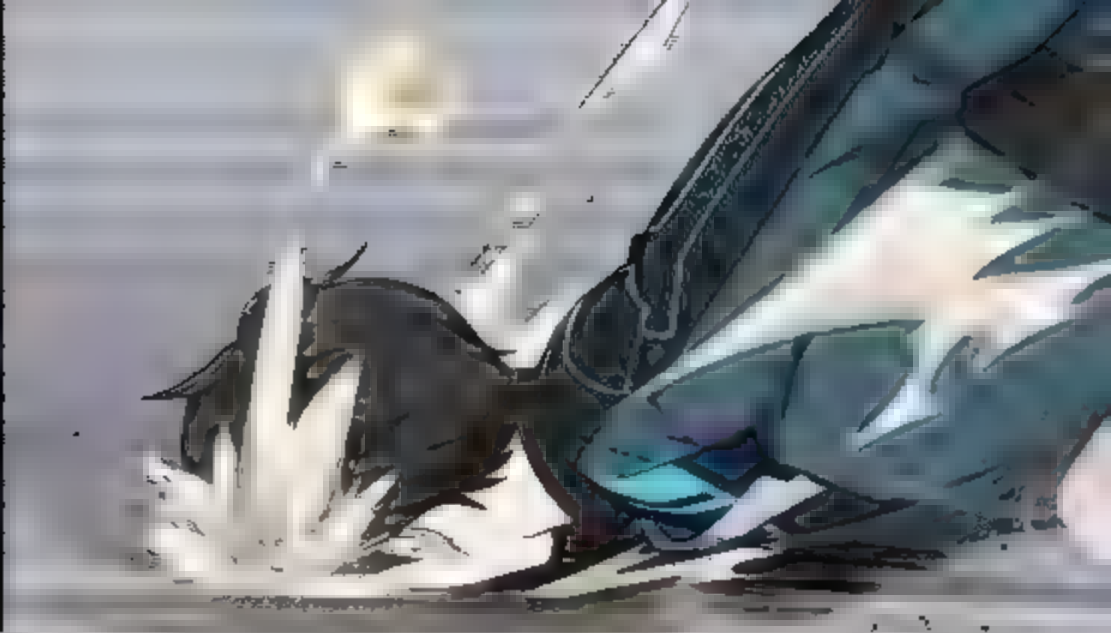
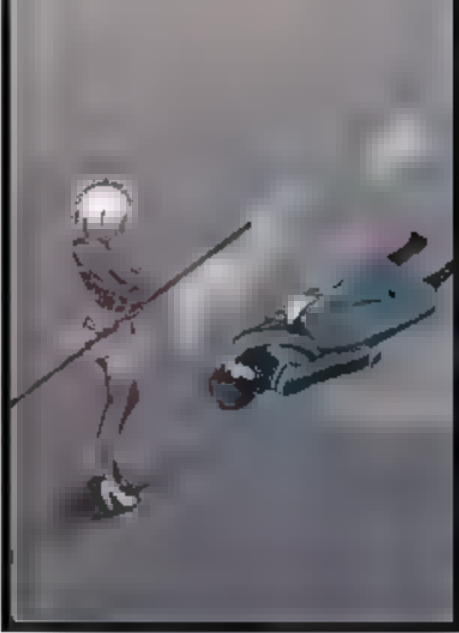
なんとか対策を考えるから それまで気をつけて

女王様だ！悪事を働いている魔物を退治してくださるんだ！

女王様がいればフィオルメは安泰だ！

異邦人かしら
どこから来たの？
ここで何をするつもり？
俺のことか？
カイゼルから来た
大陸を旅しているんだ
そう 私は元々
プリーストだったの
ジョブを変えた日に
この都市と契約したのよ
フィオルメに住む人間は
私の癒しの力によって
死ななくなる

さっきの聖光魔法は
都市全体に
かけたんだけど
あなた一人だけが
私の祝福を弾いたの
あなた
神託で言われていた
鎖の使い手ね？
なんのことだか
わからないが
まず話し合わないか？
プリーストを
傷つけるような
趣味はないんだ

女王様に
反論している…
何も知らない
田舎者だな
はっはっは
女王様に逆らった魔物が
どんなふうに殺されたのか
知らないらしい
頑張れ少年！
死んだほうがマシかも
しれないがな！
みんな 下がれ！
女王様が動けるよう
スペースを作るんだ
違いない！
だはははは！
あなたは神に背き
住民を危険に晒した
その罪は決して
許さないわ

聖光――
究極強化――回春!
気をつけて!ユウヤ!
これは…治癒魔法?今までにないぐらい身体の調子がいい…
あいつ まだ何もわかってないな すぐパンパンになるぞ!
出たぞ!女王様が最も得意とする魔法だ!俺達野郎どもが一番好きなやつ!
!

ねえ…それ
どうしたの？
何かがおかしい…
あの魔法には
こういう作用も
あるなんて…
!!
血流が速まっていく…
今度は体力強化の魔法か？
少なくとも三倍は
強化されたが…？
聖光——
究極強化——
狂戦！
どういうことだ!?
一体何を
企んでいるんだ！

どうやら落ち着いてもらうには倒すしかないか
ブシャッ!!
速い！瞬発力も強化されているぞ！
クスクス 回春は私の一番強い治癒魔法よ あなたをずっと治癒し続けるわ
狂戦は血流を速めて爆発的に身体能力を高めるの

いきなり強くなったせいで力の制御ができなくなったでしょう
そんな状態で激しく動き回ったら血管が耐えられずに破裂するのも当然

そして回春を受けているあなたの血管はすぐに修復されるわ
血管が修復されれば噴き出した血液は行き場がなくなって
体内に強い圧力がかかって全身の内臓を爆発させるの

これが
私の戦い方よ
だから私は
「優しい死神」と
呼ばれているの

あなたが本当は
いい子だって
わかっているわ
「聖光の祝福」を受ければ
あなたの罪は償える
気を失って
いなかったの!?
ココに
顔を埋めていれば
「祝福」を
受けられるのか?

受けてみてわかった
この力は
善良で純粋なものだ
お前とは戦いたくない
ガシッ!!!
だから
連れていくぞ
私の杖が!

魔力が
凍結された⁉
一体どんな能力⁉
神が消そうとしてるのなら…
まさか…
神殺しの力でも
持っているの⁉
監禁
開始!
つづく☆次回更新をお楽しみに!

何をするつもり!?
放しなさい！
怖がらなくていい
すぐに終わらせてやる
!!
ヴォオー

ひゃあん！

た…民の面前で
私を辱めるつもり!?
絶対に
許さないわよ!!
監獄空間が
開かないんだから
仕方ないだろう
お前の肌…
チョコみたいだな
美味そうだ
なっ!?
侮辱しているの!?

すごいな
中はこんな色に
なっていたのか
ちょっと苦めの
ダークチョコレートだと
思っていたが

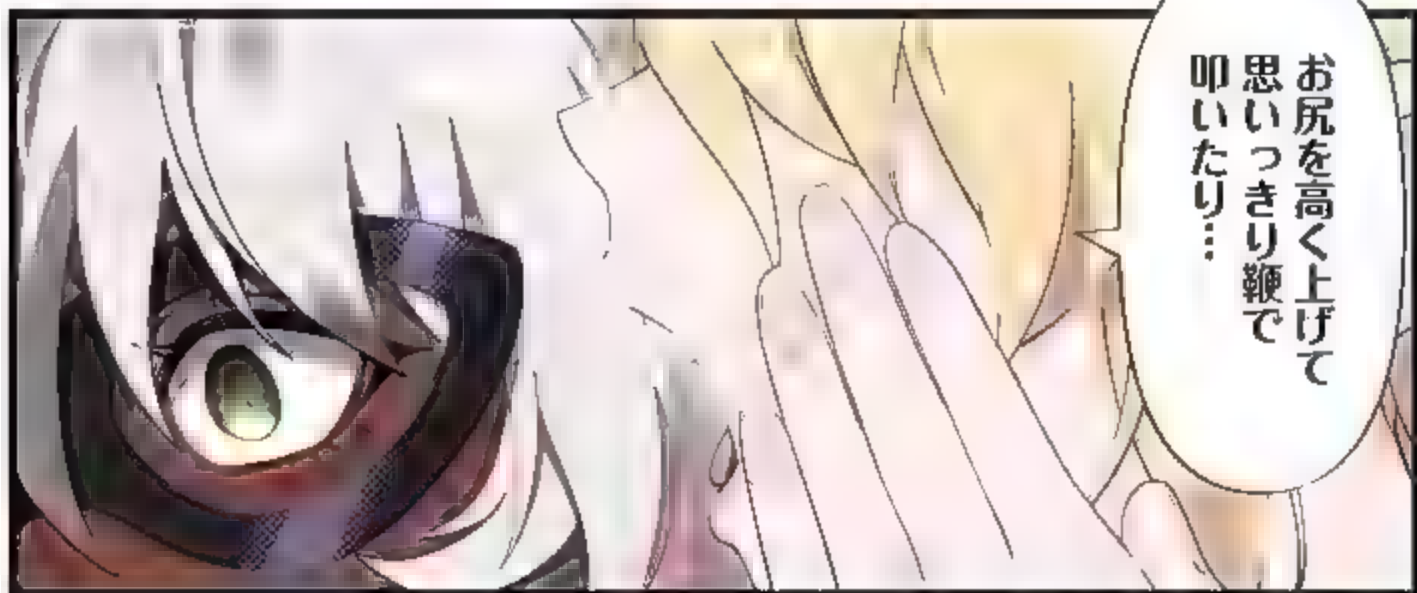
甘いイチゴのクリーム入りだったんだな
ふざけないで…!!殺すならさっさと殺しなさい!
俺ならお前や民を救えるかもしれない信じてくれ
放せ!その汚いモノをしまいなさい!

あなたさえ
来なければ
そもそもこんなことは
起こっていないのよ！
動くな
あなたが死ねば…
この災いだって
きっと！
ぐっ

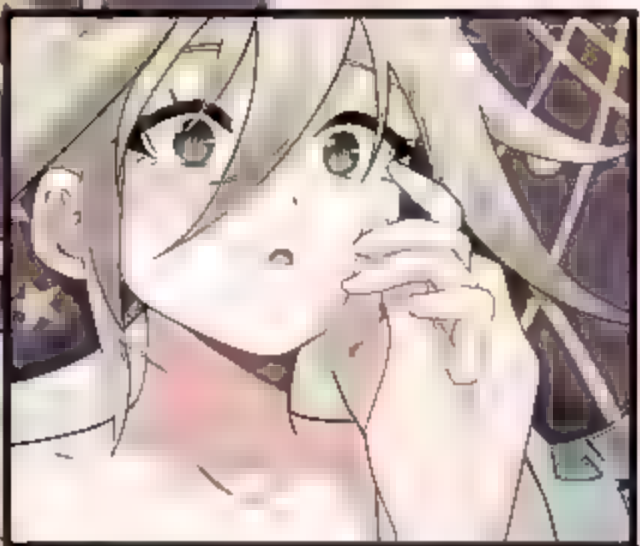
ユウヤ！
封印魔法の解除だけど
もう少し待ってくれる？
あっ
監禁を始めた
ところだった？
おい！
この女を
引き剥がしてくれ！
あんたも
手こずることがあるのね
ふふっ
しっかりと
目に焼きつけておくわ

ふーん
黒いサテン
みたいな肌
気持ちよさそう！
ここに
ミルクを
垂らして…
？
もう満足か!?
何かいい案は!?

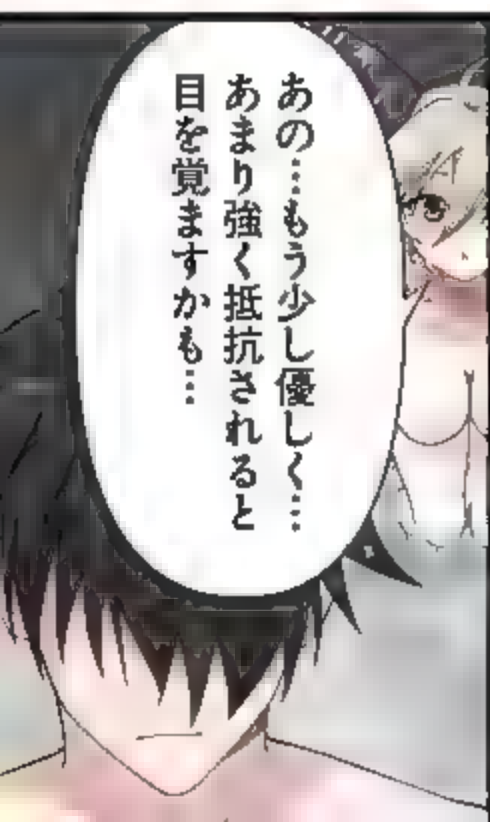
本体は監獄空間の中だし精神体の状態じゃ助言しかできないけど
鎖をもっときつく締めてみるのはどう？
ん…

お尻を高く上げて
思いっきり鞭で
叩いたり…

あなたも男なら
私を解放して
正々堂々戦いなさい！
はあ
はあ
たとえ私を目隠しして
口いっぱいに
●●を詰め込んで
逆さ吊りにされて
傷だらけになるまで
叩かれたとしても
絶対に屈服しないわ！
はあ
はあ
はあ

なんてヤツだ
このままじゃ
埒があかないぞ
この人…
たぶんだけど…
ブッブッ
そうだったのか
意志が強すぎて
普通の攻めだけじゃ
折れないが…
精神面も
一緒に攻めたほうが
きっと効果的よ
じゃ 私は戻るわね
わかった
やってみる

マリア
ちょっと
手伝ってくれ
はい
ユウヤ様
彼女を眠らせて
夢の中から
精神防御を突破したい
はい

さあ　夢の中へ！
何をするつもり？
どんな攻撃も
私は耐えてみせるわ
つづく★次回更新をお楽しみに！

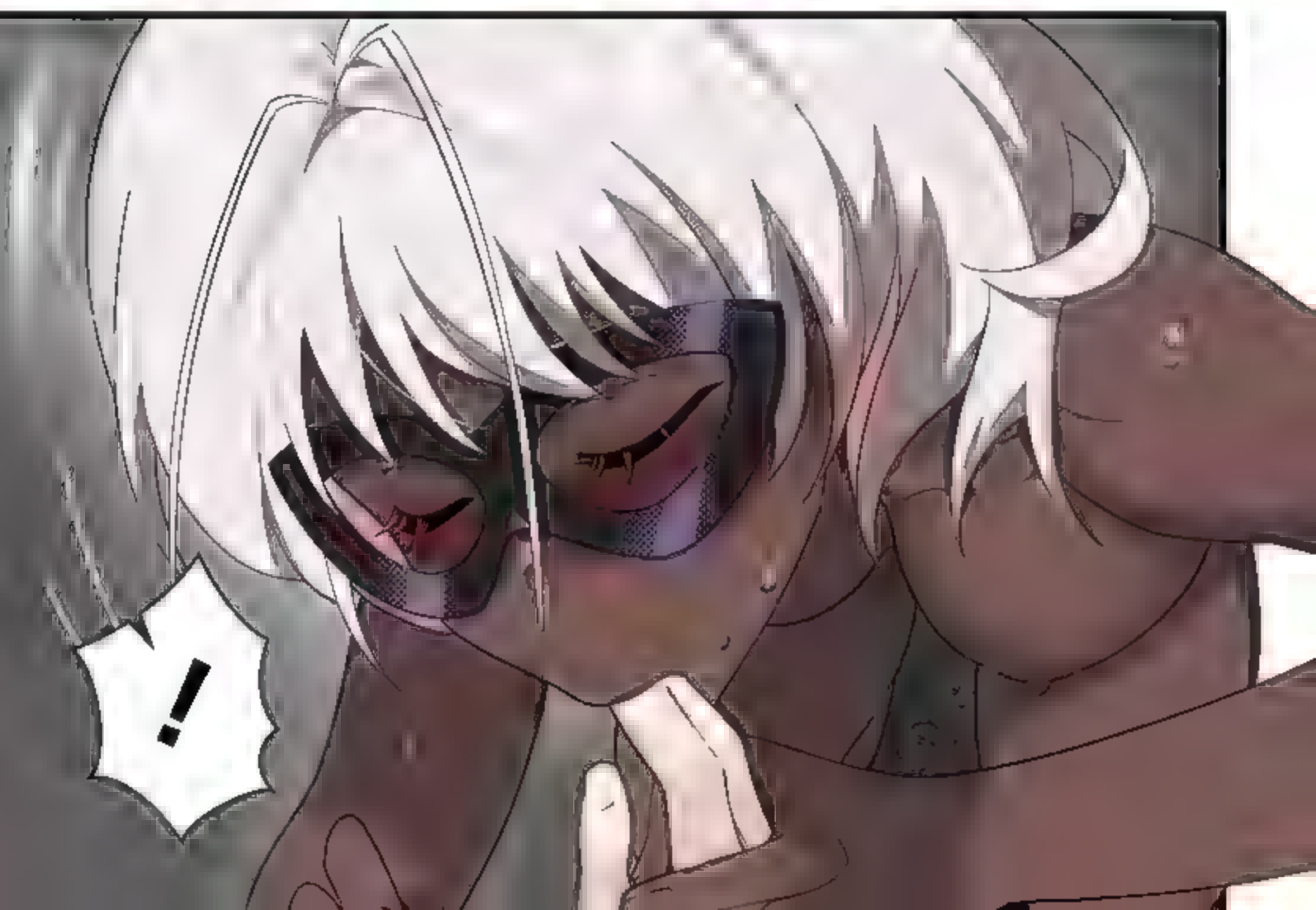
バシィッ

あなた…
私の顔を…
くっ
あの…もう少し優しく…
あまり強く抵抗されると
目を覚ますかも…
ひくっ
ひくっ

ひくっ ひくっ
変よ… どうしてこんなに 興奮しているの?
身体が固まって 動かない その変な術のせいに 違いないわ…
私はフィオルメの女王 今まで何人も 調教してきたのよ
でも今は? 身体がこの人の次の命令を 待っているなんて… あり得ないわ!!

お座り！
こんな…
こんなこと
ばかりさせて
楽しいかしら…？

ちょっとやりすぎたか？
リヴいわく
彼女の強情な性格は
すべて演技だということだが
とにかく
容赦なく
彼女を攻めろと…
んん！もっと深く
もっと強く…

ぴくっ
ぴくっ

んあ
あ
!!

動いていいと言ったか？
うっ…
あっ！はぁ！あぁぁ～んあ！
今まで私がしてきたことを…
されるのがこんなにも…あっ気持ちいいなんて！
あっ
ほら 次だ 立て

マリア
ここから
もっとキツめにいくぞ
はい…
よければ後で…
私にも…
早く！
はい…
このまま
歩くぞ

ダメよ！
見られているわ！
ん？ 誰に
見られているんだ？
言ってみろ
あっ…ダメ
私の民…
私の「犬」に！
俺に反抗するのか？
今のお前は
どんな身分なんだ？
ああああっ！
私は犬です
ご主人様の犬…
すごい…んあぁ

「犬」は責任持って
しっかり
しつけないとな
ほら歩け！
はいぃ…
うぅっ…
こんな…
恥ずかしい…
死んじゃう…

女王様だ！
みんなで
お出迎えをしよう！
女王様ー！
この世で最も
純潔で高貴な
女王様に万歳！
グチュッ
パァン
ゴプッ

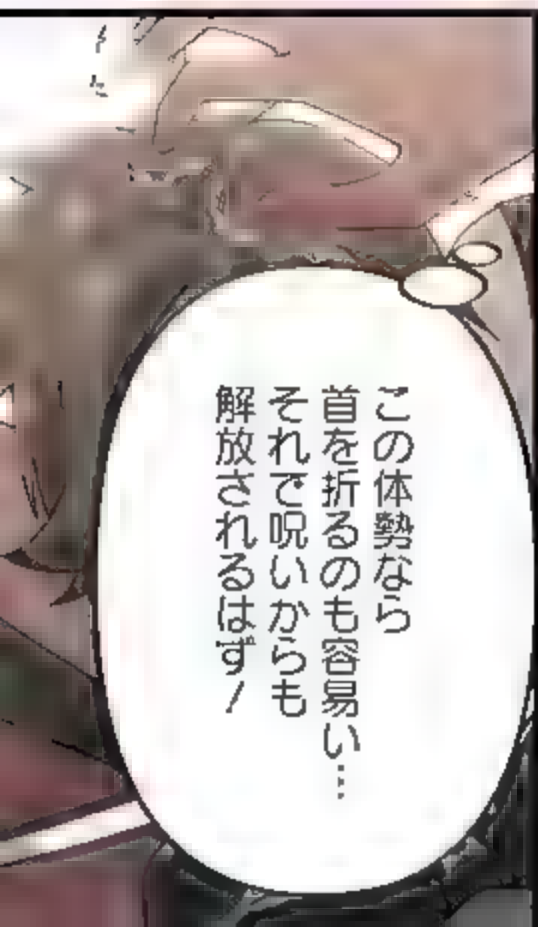
ハチュン
ハチュン
ハン
女王様！
どこまでもお供します！

この先も我々は
女王様の民であり
女王様の犬です！
しゅごっ
んごお
ああんご主人様！
イク！ イクぅ！
はぁ
はぁ
監禁
終了！
つづく ★次回更新をお楽しみに！

ガタ
ゴト
ゴト
パチ
起きたか

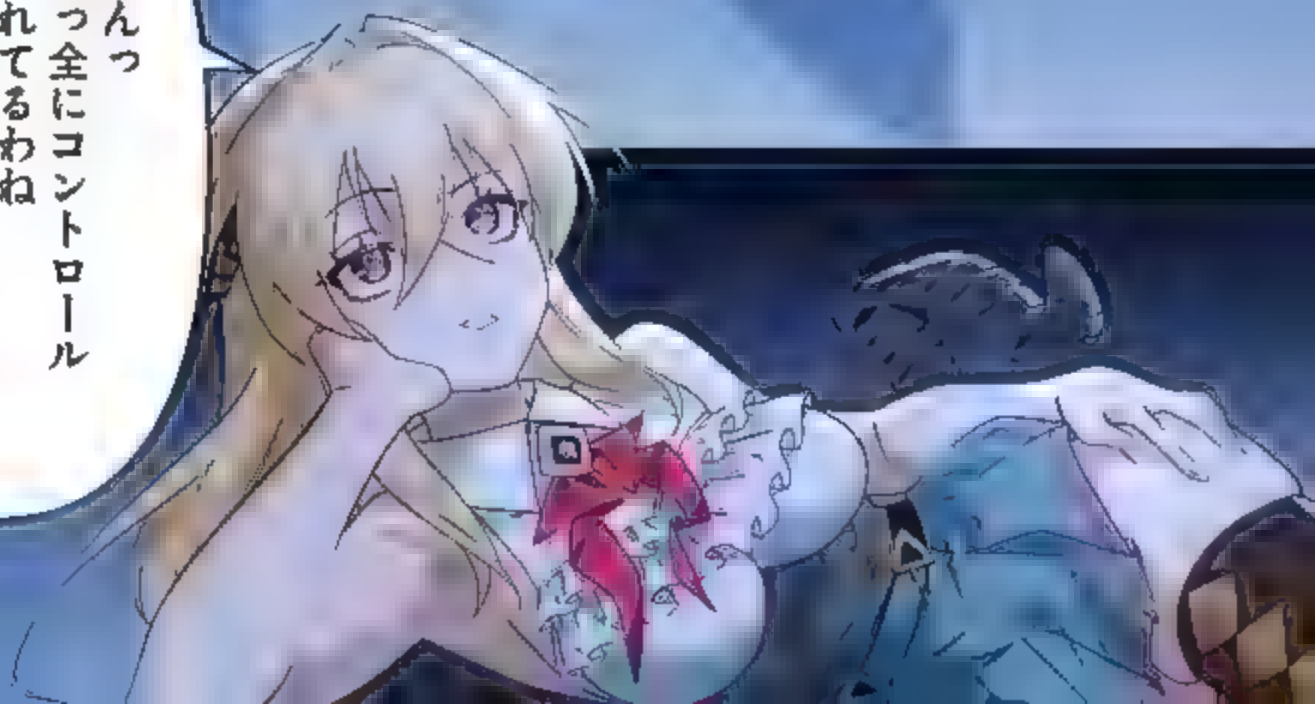
ここは…
馬車…？
この無礼者！
私をどこへ
連れて行く気⁉
……

バッ
そうだ！あなたは神が仰っていた罪人！あなたを捕まえ…
びくっ
自分の立場を忘れたのか⁉
ピタッ
ひくっ
ひくっ

ご…ご主人様…どうかこのエマに罰を！
ぎゅっ
…？
どうして…口が勝手に…!?
はっ!
まさか呪い…？神に指名されるほどの罪人…
呪いの力を持っていても不思議じゃないわ
私の都市ではあなたみたいな人間は靴磨きの奴隷程度にしかなれないわ
私の足にキスをすることすら許されない
ん？なんだって？

ストッ
???
エマは準備万端です
どうぞお好きに
なさってください…
ふぅ…
確かにちょっと
疲れたな
癒してもらおう
この体勢なら
首を折るのも容易い…
それで呪いからも
解放されるはず！

でも この体勢は
落ち着かないね
どうか楽に
なさってください
こっちのほうがいい
最高の膝枕だ
ぜ…
絶対に殺す!

うん
お前の太もも
柔らかいが
適度に弾力もある
高級な水枕より
遥かにいいん
じゃないか？
とても光栄ですわ
それでは
頭部のマッサージを
始めますね
呪いよ！
呪いのせいで
身体が勝手に!!!
優しい山風のような
息を吹き込んで
ご主人様の安眠を
サポート致しましょう
フィオルメにおいて
これは王族くらいしか
受けられない
サービスですよ
早く止めなさい！
何をしているの!?
エマ！
ああああ！
身体が勝手に
動くのが
気持ち悪いわ！
全部呪いのせいよ！
私はこんな
従順な女
じゃないのよ！

監獄空間の中
ジー
ジー
はんっ
完っ全にコントロール
されてるわね
まったく
ユウヤってヤツは
どこがいいのよ！

ところでマリア！
やるじゃない！
うまく助太刀した上に
ユウヤの精神を繋げて
あいつの視界を
ここに
映し出すなんて！
えへっ
あたし 思うんだけど
この人 リヴと似てるよね
好きなくせに
素直になれないタイプ
はあ!? どこが!?
でたらめなこと
言ってると殺すわよ！
きゃん
何か
心配事でも？
どこから話したものか…
お前は
フィオルメの女王
民達はお前を
待っているが
何が…
起きたの…？

あの後…
お前は夢境の余韻に
浸り続けていた

俺を狩りに来たお前は
結果的に
失敗してしまった
だから あの神は…

もうこの都市に
存在意義などない
消えるがよい

ぎゃあああ

ググググ…

もちろん
最善は尽くした
空間能力で
その場にいた人を
都市の外に転送した
できる限りは…
バッ
!

生き残った民を隣の都市に連れていくことにした
ああ…ご主人様…私の民をお救いくださったのですね…

ガタンッ
決めたわ！
呪われたとしても恩は返します！

呪いってなんのことだ？

よくわからないが次の都市に着くまで色々と情報を教えてくれないか

途中に危険な場所はあったりするのか？

ご心配は要りませんよ 私はご主人様の「おもちゃ」思うままに楽しんで呪ってください！

呪いってなんなんだ!? あっ ズボンを…

呪われているんです

はぁ

はぁ

べちゅ
民の…んん 進行方向は「マカ」です
ちゅるる
ちゅるる
じゅるる
あそこは 最も安全な都市… んむぅ 「最強の聖騎士守衛隊」がいます！

マカ
聖騎士訓練所
はっ!

聖騎士守衛隊隊長
マーガレット
つづく ★次回更新をお楽しみに！